

南山短期大学人間関係研究センター事業報告  
(1987年度)

I. 研究会

1. 「人間関係科の授業における個と集団の問題をめぐって」 … 山口 真人…171  
中野 清  
伊藤 雅子

II. 社会人研修

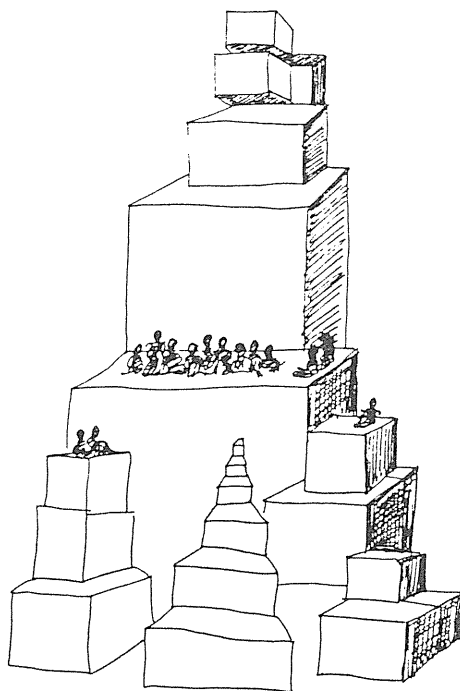
1. 社会人研修概要 …………… 175
2. 人間関係基礎研修講座 …………… 176
3. 人間関係専門研修講座 …………… 179
4. 人間関係特定研修講座 …………… 182
5. コンサルテーション …………… 184
6. 社会人研修参加者統計 …………… 185
7. 1988年度人間関係研究センター事業予定 …………… 186
- 南山短期大学人間関係研究センター規定 …………… 189



## ■ 社会人研修 / 概要

“ねむりこけたままほうられている人間が多すぎる”

—サン・テグジュペリ



センターの重要な活動である社会人のための公開講座は、昭和 52 年のセンターの発足時から毎年定期的の開講されている基礎研修講座を中心に、各種の専門研修講座や特定研修講座を開催している。これらの講座は南山短期大学が地域社会に対してユニークな学習の場を提供する機能と同時に、センター研究員に対して教育訓練に関する多様な臨床研究の場を提供する機能を果たしている。

基礎研修講座は毎年春秋 2 回開催され、既に 20 回を重ねている。基本的なプログラムは週 1 回約 3 時間（午後 6 時 15 分～9 時）の研修を 8 週間続けて 1 コースとし、体験学習による自己理解や他者理解、コミュニケーション・プロセス、グループ・プロセスの基礎を学ぶことを目指している。受講者にとっては、利害関係にとらわれることなく、さまざまな人々と接触を持つことも魅力の一つであり、そこから新しい友人関係や仲間意識が自主研修グループに育っていく場合もある。

専門研修としては、“自己理解を深める”研修と“グループ・プロセスの理解を深める”研修とが基礎研修に続く研修として開講されている。今までは集中的な体験過程を重視するため、1 回 1 泊 2 日の宿泊研修を 2 回続けて 1 コースとして行っていたが、今回当センターでははじめて、グループ理解の継続研修として T グループを中心にした人間関係トレーニングも試みられた。

特定の専門職にある人々のための特定研修講座として 1984 年度から「教師のためのセミナー」が開講されており、また現在休講になっている“カウンセラーのための講座”も再開を目指して準備中である。

一方、コンサルテーション活動は地域社会の個人や組織体に対してセンターが提供できる専門的機能であり、1984 年度には「名古屋いのちの電話準備委員会」に対して約 100 名よ電話相談ボランティアの「人間関係基礎訓練」の訓練計画の立案・実施の援助を行った。この「名古屋いのちの電話」は 1985 年 7 月から相談業務に入り、センターは引き続き 1985 年度、1986 年度と「人間関係基礎訓練」「継続研修」の訓練計画と実施の援助をしている。

---

## ■ 社会人研修／人間関係基礎研修講座

自分自身のことをもっとよく知りたい、自分の行っているコミュニケーションのあり方を点検したい、グループのメンバーとしての自分の能力をみがきたい、など人間関係の学習の主要テーマを、特別に開発された実習や個人やグループで実施しながら、体験的に学習してゆきます。

この研修は、毎週一回ウィークディの夜間（6：15～9：00）を用いて、8週間でコースになるように計画されています。春・秋各一回開催しております。

〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）

〔参加定員〕 40名

この講座は開講当初は「入門講座」と称していたが、第9回から「基礎研修」と改められ、これまで通算20回、参加者677名を数えている。

### 第20回人間関係基礎研修講座の報告

ねらいは前回までの基礎研修講座と同じである。

「今、ここのお互いの関係のなかで

- ・自分がどのような動きをしているか
- ・他者がどのように動いているか
- ・相互にどのように影響しあっているか
- ・どんな行動パターンがあるか
- ・じぶん、他人がどのような価値観をもっているか
- ・グループのなかにどのようなことが起きているのか

などに気づき

自分、他者、グループに適切な行動をとる。」

25名の参加者で始めたが、終了時には19名に減った。仕事の都合上で、どうしても午後6時15分の開始時間に間に合わず、残念ながら途中で止めざるをえなかった人もいた。担当スタッフは木村晴子、中堀仁四郎の初めての組合せであった。

展開したプログラムは別表にある。表面的にはさほど従来の基礎研修講座と変わっていない。ねらいも同じ、取り上げられた実習も同じようなものであるが、それを展開するスタッフ、参加者によって学習内容はちがったものになる。大雑把にその特長について言うならば、今回は、参加者が自分の対人コミュニケーションのありかたに気づき、学ぶことが多かったといえよう。グループでの実習（ブロックモデル、コンセンサス実習「砂漠で遭難したら」、「POPO」など）でも、そのプロセスのふりかえりに際し、「グループの話し合いの中で自分をどのように表現したり伝えたり出来たか」「相手をどのように受けとめたか」の両面から省みることをこころみた。「体験と自己の

形成」という観点から体験学習をとらえる小講義が木村により行われたのも特色といえよう。

進め方についていえば、各回、ねらいを絞り、多くは求めない。実習は一つ、前回の体験を想起し、その関連の上で新しい体験を通して学ぶことをこころがけた。

受講後の参加者の感想は、満足度、期待達成度共に高く、「自分の欠点も見付けたが、新しい体験や気づきをもとに、肯定的に自分を受け入れ、変化成長をしたい」という様なものが多かった。

全体の雰囲気としては、参加者相互に友好的であり、安定して、健康な感じで進んでいったように思われる。特にコミットできないメンバーが出て、それが最後まで続くということもなく、お互いに受け入れ、サポートしあって、最終日には「同窓会」発足の提案もなされた。しかし、時間的には「もう少し実習の体験をじっくりふりかえり、話し合うことがしたかった」という感想が多かった。各自が仕事のあと、疲れた身体と頭を引きずっての基礎研修であるが、夜9時を過ぎても、なお熱のこもった話しあい続ける参加者の姿から、「自己成長」をめざす。人間本来のポジティブな動きが感じられ、毎回、快い疲れが残る研修会であった。実施期日 1987年10月8日～12月3日 毎木曜日 全8回

(木村・中堀)



第20回 基礎研修 全日程表

人間関係研究センター

6:15	10月8日(木)	10月15日(木)	10月22日(木)	10月29日(木)	11月5日(木)	11月19日(木)	11月26日(木)	12月31日(木)
	開会 実習1 「わたしの窓」 自己紹介と ねらいの共有化	実習2 「ブロック・モデル」 グループの課題達成	導入 実習3 「聴く」	今日のねらい グループでコミュニケーション を体験する 導入 実習4 コンセンサス実習 「砂漠で生き残るには」 個人決定 集団決定	今日のねらい グループ中に起こっている こと(プロセス)をとらえる グループ中での自分のあり かたに気づく 導入 実習5 「プロセス&コンテントについて」 POPO その1 討議と観察	今日のねらい 体験学習での学び方 を確認する 導入 実習6 学習スタイルのイベントリー 小講義 気づき& フィードバック	今日のねらい 今生きている自分をとらえ 表現する グループの中でそれを言語化 し、フィードバックしあう 導入 実習8 「SELF BOX」 ウォーミングアップ	今日のねらい 自分のコミュニケーションの 傾向を把握する 。これまでの体験学習の自分に とってのまとめ 導入 実習9 「他人と話し合うときの 自分」の検討 ミンレクチャラー 「効果的コミュニケーションの 5つの要素」 TEA TIME
	TEA TIME	ふりかえり	TEA TIME	TEA TIME	TEA TIME	TEA TIME	TEA TIME	TEA TIME
	小講義 学習方法について EIAH	全体で分ち合い	まとめ	正解発表 ふりかえり まとめ	全体でふりかえり	実習7 「問題解決」 ふりかえり	グループで言語化 する 一人になって…	話しあい アンケート 修了証
8:00								
9:00								

講義のねらいの説明

## ■ 社会人研修 / 人間関係専門研修講座（継続研修）

通称「継続研修」と呼ばれ、人間関係講座で基礎研修を終了した方や、既に体験学習による研修に参加したことのある方で、さらに学習を深めたい方々のための研修です。原則としてウィークエンドに行われる一泊二日の集中的なプログラムで、二回で終了するように計画されています。

これまで10回の講座が開かれて、147名の参加者がありました。

### 継続研修（A） / 自己啓発の報告

特に自己理解を深めることや自己表現を試みることを通して自分の可能性を発見し、他者とのかわりの中で自己成長してゆくのに必要な能力を養えるように援助します。

参加者 15名

日時 1987年8月13日（木）～16日（日）

場所 長野県上伊那郡長谷村字浦

ねらい

“グループ内での相互関係を通して自分の可能性をひろげる”

この講座のねらいは

- ・相互援助関係のなかで自己理解、他者理解を深める。
- ・新しい自己表現を試みる。
- ・より創造的なかかわりあいをもつ。

講座担当者

南山短期大学 R. A. メリット

1987年度 自己啓発日程表

1987年8月13～8月16日

	13日(木)	14日(金)	15日(土)	16日(日)
7:00		朝食準備	朝食準備	朝食準備
8:00		朝食	朝食	朝食
9:00				
10:00	南短出発	セッション 「無言の対話」	セッション ロールプレイング 「私は～をしない 私は～だから～をしない」	セッション 映画「IN a Box」
11:00				
12:00		昼食準備&自由時間	昼食準備&自由時間	そうじ・あと片付け
13:00		昼食	昼食	昼食（おにぎり とうもろこし）
14:00	メリット宅着			13:00 メリット宅出発
15:00	生活についてのオリエンテーション [自由時間・散歩]	セッション 「Self Concept Inventory」	セッション ロールプレイング 「自分の困っている場合」	16:00ごろ名古屋着 星ヶ丘 いりなかで解散
16:00	セッション 「出会いのところみ質問カード」			
17:00	夕食準備・入浴	夕食準備&自由時間	夕食準備	
18:00	夕食	夕食	夕食	
19:00				
20:00	セッション 「自己実現のイベントリー」	セッション ボールけりゲーム フルーツバスケットなど	セッション 映画「トライアングル」 「モザイク」 「バラブル」(おとぎ話)	
21:00				
21:30				

## 継続研修（B）／第1回人間関係トレーニングの報告

Tグループ（トレーニング・グループの略）を中心にして展開される人間関係トレーニングが、一般に公開実施されたのは、東海地区では初めてである。南山短大人間関係科のスタッフの充実によって実現されたものであり、今後も継続される予定である。スケジュールと特色などその概略を紹介する。

1 参加者 18名    スタッフ 5名（2グループ）

日 時 1987年10月2日（金）～5日（月） 3泊4日

場 所 御岳名古屋市民休暇村（長野県）

講座担当者

南山短期大学 星野 欣生・中堀仁四郎

山口 真人・津村 俊充

2 提示されたねらいは

今このかかわりの中で

- ・自分や他者のありように気づく
- ・応答することを通して、お互いの影響に気づく
- ・より深い人間的なつながりを実現するように試みる

で、Tグループを中心にすすめられた。

3 スケジュール上の特色を2つあげてみると

- (1) 日程を3泊4日としたこと。通常5泊6日で実施されるが、参加しやすいように週末を中心に短時日とした。そのために、往路復路とも名古屋発着とし、全員が一緒に行動した。往路のバスの中で、生活のことなど簡単なオリエンテーションもあった。バスの中から研修が始まったとも言える。参加者の反応から、ねらいはかなり達成されたと考えられる。
- (2) 全体は、Tグループ11、全体会5で構成されている。特に、朝食前に“モーニングサロン”を設け、全員が集まって、コーヒーなどを飲みながら、自由に話し合ったり、スタッフが簡単な講義をしたことは、有意義な朝の過ごし方であったようである。

4 参加者の感想（学んだこと、アンケートより）

- ・自分はよく聴いているつもりだったが、そうじゃないんだ、どんどん見落としているし、気づかないでいる。
- ・向こうから与えられることをいつも待っていた自分に気づいた。どんな方法でもいい、自分で歩みださなくてはならないことを知らされた。
- ・ふれあいの大切さ、思い違い、暖たかみのある人たち、ぬくもりを感じた。
- ・自分が気づいていないところで、人がどんなに傷ついているかということ。
- ・他者と深くかかわる事の難しさ、それでもかかわっていきたい自分がある。
- ・人を受け入れること。やさしくアプローチすること。
- ・人の気持ちをもっと丁寧にみていく。
- ・グループで一人一人を大切にしながら学んでいく事の難しさと手掛かり。
- ・グループの変化を冷静にみることができた。



1987年度 人間関係トレーニング全日程表

1987年10月2日～10月5日

	10月2日(金)	10月3日(土)	10月4日(月日)	10月5日(月)
7:30				
8:00			モーニング・サロン 「話らい」	モーニング・サロン 「Tグループのルーツ」
9:00		朝食	朝食	朝食
10:30		T 1	T 6	T 10
11:00		T 2	T 7	全体会4 「目かくし探険」
12:30		昼食	昼食	昼食
2:00			1:45	1:30 T 11
3:00		全体会2 「ベア・インタビュー」	全体会3 「気づき」	全体会5 「全体のふりかえり」 3:15
		T 3	自由	閉会・アンケート 3:45
		4:15	4:30	出 発
		4:45	T 8	
6:00	名古屋出発 (全員バスで)	夕食	夕食	名古屋着 (全員バスで)
7:30		T 5	T 9	
9:00		夜のつどい	夜のつどい	
9:30	御兵到着			
10:30	入 浴			
11:00	開会/全体会1 「ねらいの共有化」 夜のつどい			

## ■ 社会人研修 / 人間関係特定研修講座

教師のためのセミナー

『生き生きした授業をつくる』

—ヒューマニスティック・エデュケーションへの接近—

このセミナーは現在教職に就いている人々が、学級の中でのひとりひとりの児童・生徒の真実の姿に迫る視点を探り、子供たちが生き生きとした感情や意欲を発達させることができるような授業をつくり出せるように、自己発見と自己成長のための相互啓発の場を提供することを目的としています。

特に次の様な方におすすめします。

- \* 児童・生徒の知識や技能を伸ばすだけでなく、情意も豊かに伸ばす授業づくりに取り組んでいる方、又は取り組みたい方。
- \* 体験やイメージやファンタジーを使って、教室での学習をもっと楽しく興味深いものにしたいと思っている方。
- \* 児童・生徒ともっと深いところで対話を持って、心理的成長を援助できるようになりたいと願っている方。
- \* 教師としての自分の可能性をもっと探ってみたいと思っている方。

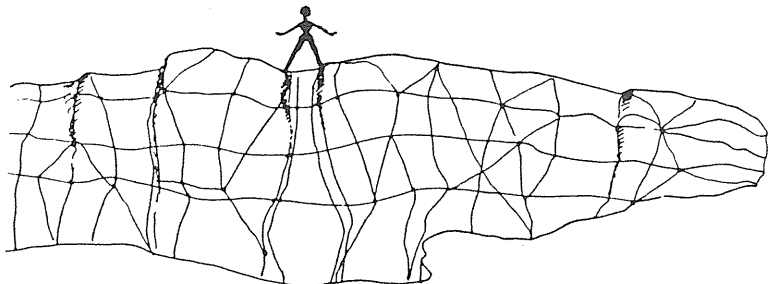
1987年は10月2日～12月18日までの木曜日（午後6時15分～9時）に11回実施した。参加者は現職教員7名（女6・男1）。

内容は、自分自身の情動に対する気づきを探めるための実習や話し合いを中心にしたゲジュタルト・アプローチを取りながら、適時読書報告や参加者の教育実践報告などを交え、熱心に進められました。

日 程	内 容	日 程	内 容
第1回	ねらいの提示と共有化 自分を語る実習	第7回	自由な話し合い 気づきの実習
第2回	自由な話し合い・読書感想 気づきの実習	第8回	自由な話し合い リフレクターの実習
第3回	自由な話し合い・読書感想 ファンタジーの実習	第9回	自由な話し合い リフレクターの実習
第4回	自由な話し合い 気づきの実習	第10回	自由な話し合い リフレクターの実習
第5回	自由な話し合い 気づきの実習	第11回	自由な話し合い 気づきの実習
第6回	自由な話し合い パーソナル・リスポンスの実習		

—今年度セミナー参加者の感想の中から—

- \*幼稚園，小・中学校・高校と，いろいろな教育現場の生の声が聞けて視野が開けた。
- \*実習を通して少し‘自分’がわかったような気がした。
- \*場所と接する生先方が異なるだけでこんなにリフレッシュできるのかとおどろきました。
- \*他者を介さず，先入観を持たず，どこでも接する生徒に自由に話しかけ，話を聴くことが多くなった。何でもきっかけにしてやろうということが多くなったようです。楽しくなったことが最大の収穫です。
- \*私自身登校拒否寸前の状態の時にこのセミナーに参加した。一つの出来事にもいろんな見方をしよう，むしろ長所を見つけようという努力を心がけるようになった。どうしたら向上するようになるかを気長に構えることにした。「気づき」の遅い私なのだが，もうしばらくこの職でがんばっていきたい。
- \*一週間という期間を区切ってふりかえることによって，どのように生きるかということをつかむことができた。続けたい習慣のように思う。また現実を受け入れること，気づきのあること，そのことの雰囲気が決して暗いものでもなくまた悲しくつらいことでもなく，希望やユーモアに満ちていることでもあることを知りました。



---

## ■ コンサルテーション

### ○「名古屋いのちの電話」電話相談員養成講座の計画と実施

「いのちの電話」は、訓練を受けたボランティアが電話を通して、さまざまな悩みや心の危機に直面しながら身近に相談できる相手がなく孤独の中にいる人たちの、良き相談相手になっていこうとする市民の奉仕活動である。1953年ロンドンで始められ、現在では世界40ヶ国、数百都市に設立されている。日本では、1971年に「東京いのちの電話」が開設され、今日まで東京、横浜、京都、大阪など27都市に設立され、「日本のいのちの電話連盟」を組織して各地でそれぞれ独自の活動をしている。

「名古屋いのちの電話」は全国で23番目の「いのちの電話」として1985年7月に開局し、現在130名余りのボランティアが年中無休の電話による心理的危機に対する援助活動に参加している。人間関係研究センターは、名古屋いのちの電話訓練委員会からの要請で、相談員養成講座の第一課程である人間関係基礎訓練のプログラムの立案と実施のコンサルテーションを行っている。本年(1986年)7月には「名古屋いのちの電話」より感謝状の贈呈を受けた。

基礎訓練は「自己理解を深める」をねらいとして、1回2時間のセッションを毎週1回、計8回の体験学習プログラムを立案し、1985年度は第2期生(50名)の基礎訓練を1986年1月から3月に実施した。1986年度は第3期生(60名)の基礎訓練を1986年10月から12月に実施し、同時に既に相談員として認定を受けた人の中から基礎訓練の担当スタッフを養成するためのプロジェクトを開始した。

ねらい：「自己理解を深める」

- 自分の価値観(考え方や行動の特徴)に気づく。
- 自分のありのままを表現する。
- 相手のありのままを聴く。
- 対人関係(自分との、他者との)のなかにある自分のあり方に気づく。
- 今、ここでの関係の中におこっていることに気づく。

この訓練は、電話相談養成の目的で行われたものであるが、決して相談員となるための技能訓練ではない。社会の中で、人とのかかわりの中で、共に生きようとするときに、誰でも求められることからの訓練としてプログラムされたものである。

社会人研修 / 参加者統計

講座名	場所	担当者	期	間	時間	曜日	参加者数	性別		居住地		職業								年齢							
								男	女	市内	市外	公務員	団体職員	会社員	自営業	医療関係	教育関係	主婦	学生	その他	無答	20～29才	30～39才	40～49才	50才以上	無答	
前回まで							638	188	450	418	218	37	33	180	23	61	90	31	77	69	35	0	319	171	102	43	2
第19回基礎研修	南山短大	伊藤 樋田	S62.5/8～7/3		18:15～21:00	金 (8回)	14	1	13	6	8	1	3	6	0	1	2	0	1	0	0	11	2	0	1	0	
第20回基礎研修	〃	中堀 木村	S62.10/8～12/3		〃	木 (8回)	25	3	22	16	9	1	2	6	0	1	7	0	4	1	3	0	14	6	3	2	0
計							677	192	485	440	253	39	38	192	23	63	99	31	82	70	38	0	344	179	105	46	2
前回まで							147	42	105	103	44	14	11	28	3	30	23	1	10	21	6	0	59	46	32	11	0
継続研修A 自己啓発	長野県 長谷村浦	R. A. メリット	S62.8/13～8/16			金酒 3回(4回)	15	3	12	7	8	0	1	4	1	0	5	0	1	1	1	1	10	5	0	0	0
継続研修A セルフサイエンス	南山短大	津村	S62.9/18～12/25		18:15～21:00	金 (12回)	30	3	27	14	16	1	4	13	1	0	4	3	4	0	0	14	8	5	1	2	
継続研修B 人間関係トレーニング (Tグループ)	長野県 御宿休庵村	星野・中堀 山口・津村	S62.10/2～10/5			金酒 3回(4回)	20	3	17	10	10	2	3	5	0	2	0	1	4	0	2	1	4	5	5	1	1
計							212	51	161	134	78	17	19	50	5	32	32	5	19	22	9	2	87	64	42	17	3
前回まで							87	21	66	49	38	0	3	4	1	2	52	24	0	0	1	0	17	29	23	18	0
企業の教育担当者のためのセミナー	商工会議所 (十種支所)	星野	S62.6/27～S63.1/23		14:00～17:00	土 (12回)	17	11	6	9	8	0	2	10	3	0	1	0	1	0	0	2	6	3	5	1	
教師のためのセミナー	南山短大	山口	S62.9/19～S63.1/9		14:00～17:00	土 (11回)	8	1	7	5	3	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	2	4	2	0	0	
計							112	33	79	63	49	0	5	14	4	2	61	24	1	0	1	0	21	39	28	23	1
総計							1001	276	725	637	362	56	62	256	32	97	192	60	102	92	48	2	452	282	175	86	6

---

## ■ 社会人研修／人間関係研究センター 1988 年度事業予定

南山短期大学      The Center for the Study of Human Relations  
人間関係研究センター      of Nanzan Junior College

個性ある生き方と人間性豊かな社会をつくり出すために

私たちは一人ひとり豊かな人間性と独自の個性を持ったかけがえのない存在です。ところが現代社会の中で私たちは、役割の中に埋没し、互いに心を閉ざし、かかわり合うことをおそれ、人間をあたかも物の如くに扱い、自分も取るに足らぬ者としか感じられなくなっていないでしょうか。

人間関係の教育は、対話を通して自分の価値観や人生観をみがき、他者への思いやりと感受性を豊かに養い、ひとりひとりが生かされるグループや共同体を形成し、人間疎外の社会を愛と信頼関係のあふれる人間尊重の社会へと変革することと、それらの担い手を育てることに取り組みます。

いまこそ本当に人間関係の教育が必要とされているのです。

---

### 一 般 研 修

---

#### 人間関係講座 一基礎研修一

自分自身のことをもっとよく知りたい、自分の行っているコミュニケーションのあり方を点検したい、グループのメンバーとしての自分の能力をみがきたい、など人間関係の学習の主要テーマを、特別に開発された実習や個人やグループになって行いながら、体験的に学習してゆきます。この研修は、毎週一回ウィークディの夜間（6：15～9：00）を用いて、8週間で一コースになるように計画されています。春・秋各一回開催しております。

##### 第 21 回 人間関係基礎研修講座

1988 年 5 月 19 日（金）～7 月 14 日（金）午後 6 時 15 分～9 時

##### 第 20 回 人間関係基礎研修講座

1988 年 10 月 14 日（金）～12 月 16 日（金）午後 6 時 15 分～9 時

〔参加資格〕 20 才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）

〔参加定員〕 40 名

〔参加費〕 15,000 円

##### 第 23 回 人間関係基礎研修講座

平日午前開講 今回は新しく女性のための人間関係講座を開講する予定です。

---

## 継続研修

---

基礎研修を終了した方や、既に体験学習による研修に参加したことのある方で、さらに学習を深めたい方々のための研修です。ウィークエンドに行われる一泊二日の集中的なプログラムで、二回で終了するように計画されています。また四泊五日の集中的グループ体験による研修及び毎週一回12回程の研修も予定されています。

### 継続研修 (A) —自己啓発—

特に自己理解を深めることや自己表現を試みることを通して自分の可能性を発見し、他者とのかわりの中で自己成長してゆくのに必要な能力を養えるように援助します。

〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）で原則として基礎研修または体験学習を主とした研修に参加された方

〔参加定員〕 20名

〔参加費〕 30,000円

### 継続研修 (A) —セルフ・サイエンス—

アメリカ (University of Massachusetts) にて、ウエインシュタイン教授が提唱するトランペット・セオリー (The Trumpet) に基づいて、対人関係の中で自分の行動パターンを明確にするとともに、そのパターンの変革を試みようとしています。

〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）で原則として基礎研修または体験学習を主とした研修に参加された方

〔参加定員〕 20名

〔参加費〕 20,000円

### 継続研修 (B) —人間関係トレーニング (Tグループ)—

「人間関係トレーニング」では、小グループという“今・ここ”の場の中に生じるメンバー間のコミュニケーションや影響関係を学習の素材とする学習方法をとります。実際に自分が、他者とのように関わっているかに気づき、吟味し、新たな可能性を試みることを通して、人間存在に対する理解を深め、人間関係の本質を体験的に学んでゆきます。そこでのひとつひとつの影響関係が有機的につながって、より深い人間関係を生み、次第にグループというまとまりが育っていく過程の学習そのものを学びます。

〔参加定員〕 20名

〔参加費〕 60,000円

---

## 特定研修

---

### 教師のためのセミナー

#### 「気づきを深める」—ヒューマニスティック・エデュケーションへの接近—

「子供の真実の姿を理解していることは、効果的でなお創造性のある授業の実現に半ば成功したようなものだ」と言われますが、現在の教室での状況はいかがでしょうか。子供の真実の姿を理解するどころか、教師として子供たちの見せかけの言動にまどわされたり、色眼鏡で子供たちを見てしまったり、自分の感受性の乏しさに気づかないこともしばしばですし、逆に子供たち自身が自分の真実を見失ってしまっていることすら起こっています。このセミナーでは、学級の中の子供たちのありのままの姿をみる目を養い、ひとり一人の子供の真実を迫る視点を探ります。

このセミナーのプロセスは教職にある人々の相互啓発による自己発展と自己成長の機会になると思います。

〔参加資格〕 現在小・中・高校で教職についておられる方

〔参加定員〕 12名

〔参加費〕 20,000円

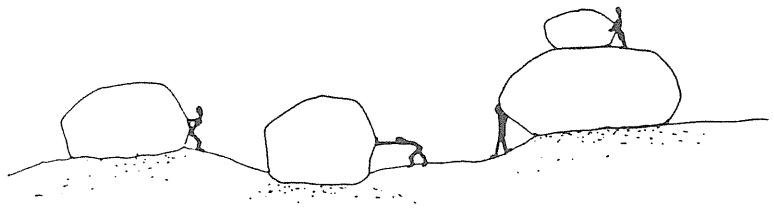
### 企業の教育担当者のためのセミナー

円高ドル安、社会の高齢化などきびしい社会情勢の中で、企業内教育はいま一つの曲り角にあるといわれますが、いかがでしょうか。このような機会に、日頃企業内の教育にかかわっておられる人たちが集って勉強会を持ってみたいと思ひ、次のような企画を立ててみました。気楽に、話合ったり、実習をしながら、これからの企業内教育のあり方などを共に探りたいと思います。

〔定員〕 約20名（組織や企業で教育にかかわっている方）

〔受講料〕 40,000円

注) 1988年度開講予定のプログラムの日程等に関するご質問は南山短期大学人間関係研究センター（Tel. 052-832-6211・6214）までお問い合わせ下さい。





## 南山短期大学人間関係研究センター規程

第1条 本学に南山短期大学人間関係研究センター（The Center for the Study of Human Relations of Nanzan Junior College）（以下「センター」という）をおく。

第2条 センターはキリスト教的人間観に立って広く学際的・行動科学的に人間・人間関係の研究および研修を行うことを目的とする。

第3条 前条の目的を達成するために、次の各号の事業を行う。

1. 人間・人間関係に関する研究と教育の推進
2. センターと目的を共通にする学外研究機関との協力
3. 地域社会における開かれた大学としての諸機能を果たすために研究会・研修会等の開催および個別的相談・指導・援助等
4. 研究成果の刊行ならびに文献・資料の蒐集と一般への公開
5. その他センターの目的達成のために必要と認める事業

第4条 センターに研究員を置き、そのうち1名を主任とする。

② 研究員および主任は学長が委嘱する。

第5条 主任はセンターの事業を掌理し、センターを代表する。

第6条 センターは必要に応じて顧問・相談員・講師をおくことができる。

第7条 センターはその目的にそって研修しようとするものを研修生として受け入れ指導・援助を行う。

研修生についての規程は別に定める。

第8条 センターに事務職員をおく。事務職員は主任の指示をうけてセンターの事務を担当する。

付 則

本規程は昭和52年9月30日より実施する。

### 南山短期大学人間関係研究センター研究員

（1987年4月～1988年3月）

主任 山口 真人

研究員 グラバア藤岡俊子 樋田大二郎 堀部 憲夫 星野 欣生

市瀬 英昭 伊藤 雅子 木村 晴子 まどか(蛭田) 庸代

宮本 桂 中堀仁四郎 中野 清 大森 正樹

竹内 敏晴 津村 俊充

（ABC順）

事務局 渡辺みどり

## 編集後記

今回は特集として「グループの中に生きる」をテーマに本紀要の構成を考えた。人間関係科の教育の中にあっても、また研究センターの研修の中においても集団を用いた教育の実践と聞くとどうしても集団成員の人間性を殺して集団の生産性を高めるためだけの教育・研修をやっているように受け取られがちである。少なくとも以前の教育・研修においてはそうしたことが強調されたときもあっただろうし、現在においてもそうした教育・研修理念を中心としたプログラムが実践されているかも知れない。しかし、本号の特集では個人の人間性の尊重を基盤にした教育・研修理念及び実践が論じられている。本号の特集のテーマを設定する際に苦慮したのがテーマの命名の仕方であり、ともすれば前者の集団観・教育観と受け取られないかということであった。読者の方々はどのように受け取られたであろうか、少々編集者として懸念するところである。

本号の編集において特集のテーマを取り上げる領域を「何故今グループか？」といった問題提起、教育場面における個と集団、組織における個と集団、家族における個と集団、不適応現象における個と集団の5領域の問題の設定を行っていたのだが、残念なことにくつかの原稿が間に合わず、特に家族の領域の論文が掲載できなかったことが惜しまれてならない。家族を集団として考えていくことが妥当なのか、またはシステム論的アプローチが適切なのか、家族関係を考える際にもっと違った理念枠を用いたアプローチが意味をもつのか、家族の中における人間関係の問題を健全な家族や治療を必要とする家族の問題を含めて別の機会に取り上げてみたいと考えている。しかし、一方では研究員以外の方からの投稿によって教育・研修の実践をもとにした個と集団の問題を取り上げることができたのは編集者にとってうれしいことであった。

河津先生を迎えての「学習者を中心にすえた教育のあり方」に関する特別研究会の報告はいかがでしたか。少し長い報告になったが学習者を大切にする教育を実践しようとしてされている方には有意義なお話を聞くことができたのではないだろうか。また先号からもうけた「ミニレクチャー」のセクションでは人間学的な領域からラボラトリー・トレーニングの理念と実践の話題まで豊富なキー・コンセプトを紹介することができたのではないだろうか。今後も引き続き人間性を尊重した教育の理念・実践にとって重要なコンセプトを紹介していきたいと考えている。

「レポート」のセクションでは米国 NTL のラボラトリー・トレーニングの近況並びに新しいプログラムの報告がされているがこれからも様々な領域での人間関係トレーニングや教育実践の報告を掲載していきたいと考えている。

今後も研究員にとどまらず、多くの方々に投稿をお願いしたいと思っている。また読者の方々からの御批判・御指導をいただき、編集者一同本紀要の充実した出版を行なっていきたいと考えている。

最後になりましたが、今回御多忙の中執筆の労をおとりいただいた方々にはこの場をかりて深く感謝を致します。  
(津村 俊充 記)

# 人間関係 創刊号 1984 人間関係 第2・3号 合併号 1985

目次

特別講演 コンテンション・シエラ理論について—現状と課題— 野中郁次郎・2

特集 「Tグループ」

JICEラボラトリー—トレーニングの変遷(その1)— 中徳仁四郎・11

高等教育におけるTグループの実践— 星野欣生・山口真人・36

人間関係科Tグループ実践をめぐって— 座談会— 77

Tグループによる学習過程理解のための方法論的研究1) — 学生の形容詞語表現による学習理解への多角的アプローチ— 津村 俊充・90

Tグループに於ける女性 — 規範と性役割に由来する問題点— KANTER・倉澤優三・99

専載報告 (1977年—1983年)

I 研究会

1. 「コンテンツション理論について」— 野中郁次郎(橋大学)・108

— 現状と課題—

2. 「大学教育におけるTグループ適用の試み」— 星野 欣生(南山短大)

— 教育の変革を求めて— 山口 真人(南山短大)・109

3. 「これからのカウンセリングのあり方」— 小林 純(上智大学)・111

4. 「わたしの歩んで来た道」— 石山 徳嗣(上智大学)・113

5. 「ヒューマニスティック・エデュケーションの動向と自己成長への身体的アプローチ」— グラバア俊子(南山短大)・116

6. 「フーバーと教育」— 我と汝を中心にして— 真行寺 功(金沢大学)・118

7. 「With-nessということ」— 星野 欣生(南山短大)・120

— 教師・学生関係について—

8. 「関係の神学」— 奥村一郎(聖母女子学院大)・122

9. 「教育を考えたおす」— 伊東 博(横浜国立大学)・126

10. 「からだ、ことば」— 竹内敏晴(宮城教育大学)・128

II 社会人研修

1. 人間関係基礎研修講座— 132

2. 人間関係専門研修講座— 134

3. 人間関係特定研修講座— 137

4. 社会人研修参加者統計— 140

5. 1984年度社会人研修予定— 141

III 南山短期大学人間関係研究センター— 142

IV 南山短期大学人間関係研究センター— 143

目次

特別研究会 人間関係の教育— 河合 肇雄・2

特集 「人間教育における体験学習」

I 高等教育における体験学習

1. 南山短期大学人間関係科の教育の概観— 星野 欣生・39

— 10年の歴史と展望—

2. 人間関係科における教育の試み— R.A.メリット・47

— 見直された体験学習—

3. 「人間関係訓練による「体験学習」— 柳原 光・64

— トレーニングから学習へ—

II 南山短期大学人間関係科の10年

1. 教育の実践

1) 年次の授業の流れ— 伊藤 雅子・83

2) 人間関係基礎論A, B— 柳原 光・89

3) 人間関係基礎論I(哲学的基礎・同演習)— 倉澤 優三・95

4) 人間関係基礎論II(心理学的基礎・同演習)— グラバア俊子・100

5) 人間関係基礎論III(社会的基礎・同演習)— 山口 真人・106

6) 人間関係研究法(その1)— 星野 欣生・114

7) 人間関係研究法(その2)— 星野 欣生・117

— フィールドワーク—

2. 年次の授業の流れ

8) 人間関係各論I(家族に関する領域)— 伊藤 雅子・124

9) 人間関係各論II(組織・集団に関する領域)— 山口 真人・122

10) 人間関係各論III(文化に関する領域)— 森田 茂彦・136

11) 人間関係各論IV(教育に関する領域)— R.A.メリット・141

12) 人間関係各論V(援助法に関する領域)— グラバア俊子・145

13) 人間関係実務演習(卒業研究)— 山口 真人・150

14) 人間関係実務演習II(卒業研究)— 星野 欣生・156

2. 学生の学びとその転換

1) 在学2年間で卒業後5年間の個人の成長記録から— 倉澤 優三・162

2) 卒業生の追跡調査から— 津村 俊充・179

3. 人間関係科に新しくかわる教員として

1) 教師と学生のかかりをめぐって— 木村 晴子・205

— 心理臨床分野の教員として—

2) 「体験学習」を哲学する— 中野 清・208

— 体験と知とコト、知の重複を求めて—

投稿 JICEラボラトリー— トレーニングの変遷(その2)— 中徳仁四郎・217

専載報告 (1984年)

I 研究会

1. 「もう一つの主婦像— 藤原のおかみさんたち」— 天野 正子(千葉大学)・269

2. 人間関係科における体験学習— グラバア俊子(南山短大)・271

— 教員の十二年間—

3. 体験学習と理論学習をめぐって— 中野 清(南山短大)・273

— 修行を続ける—

II 社会人研修

1. 人間関係基礎研修講座— 277

2. 人間関係専門研修講座— 279

3. 人間関係特定研修講座— 281

4. コンサルテーション— 283

5. 社会人研修参加者統計— 285

6. 1985年度社会人研修予定— 286

III 南山短期大学人間関係研究センター— 288

# 人間関係 第4号 1986

目次

特別研究会 人間関係と自己表現— 竹内 敬晴・2

特集 「自己表現」

I 自己表現ワークショップからの報告

自己表現ワークショップの概要— 山口 真人・33

ワークショップ1「私の依拠作り」— 木村 晴子・36

” 2「自由に語ろう、感ずるままに!」— 倉沢 優三・46

” 3「クリエイティブ・ペインティング」— 山口 真人・53

” 4「オリエントミ」— グラバア 俊子・60

” 5「情熱とスベイン舞踏— 感情と表現」— まどか 廣代・71

” 6「絵本つくり— 誕生—」— 文珠紀久野・86

II 自己表現をめぐっての考察

1. チームづくりと自己表現— 星野 欣生・93

2. 神秘体験にある自己表現— 大藤 正樹・98

3. 現代文化と自己表現— 樋田大二郎・102

ミニレクチャー

体験学習— 星野 欣生・109

プロセスとは何か— 津村 俊充・116

コミュニケーション・プロセス— 山口 真人・120

翻訳ミニレクチャー

センシティブ・トレーニングとは何か— Charles Seashore(津村俊充訳)・125

グループ: その誕生から死までのサイクル— Richard C. Weber(津村俊充訳)・130

レポート

人間関係研究センター— 社会人研修

「人間関係基礎研修の理論と実際」— 津村 俊充・137

委員研究員から報告

「私の人間関係体験学習の中で」— 高平百合子・150

専載報告 (1985, 1986年度)

I 研究会

1. 「今日からみた人間関係科創設の意義」— 澤田 慶穂・153

2. 「スペインにおける生命倫理研究の現状」— まどか 廣代・155

II 社会人研修

1. 人間関係基礎研修講座— 158

2. 人間関係専門研修講座— 159

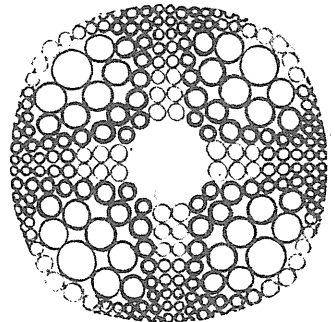
3. 人間関係特定研修講座— 162

4. コンサルテーション— 164

5. 社会人研修参加者統計— 166

6. 1987年度人間関係研究センター— 専載予定— 167

南山短期大学人間関係研究センター— 規定— 169



編集者 津村俊充  
山口真人  
中堀仁四郎

---

人間関係 第5号  
1988年3月20日 発行

編集発行者 〒466 名古屋市昭和区隼人町19番地  
電話 (052) 832-6211・6214  
南山短期大学人間関係研究センター  
代表者 山口真人  
印刷所 尾頭橋印刷所  
名古屋市中川区尾頭橋3丁目22番6号  
電話 (052) 331-5077(代)